

科目名	企画科目（カウンセリング論B）				学期	後期	単位数	2	担当者	木下忠恭
副題	-									
ナンバリング	N2-10-254	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,4	

### 授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

### 授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

### 授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る（クライアント中心療法）
5. 様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6. 様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7. 様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8. 様々なカウンセリングを知る（その他）
9. 子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10. 保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12. 被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15. まとめ

### 準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90分）。

各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90分）、次回に提出する。

### テキスト

随時プリント配布

### 参考書・参考資料等

①『カウンセリングの実際問題』河合隼雄著 誠信書房、1970年 ②『カウンセリングの理論』國分康孝著 誠信書房、1980年 ③『カウンセリングの技法』國分康孝著 誠信書房、1979年 ④『カウンセリングとは何か』諸富祥彦著 誠信書房等、2010年

### 学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

### ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) カウンセリングの技法（最低3つ以上）と基礎知識について説明できる。
- (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

### その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士、公認心理師資格を有する教員が、心理支援職という実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、ゲシュタルト療法などのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。